

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和8年度 瀬谷支援学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和8年5月25日(月) 14:30~16:30
開催場所	瀬谷支援学校 G棟
出席者	委員6名(本校校長1名を含む) ※2名欠席 事務局11名 ※2名欠席
会議資料	①学校運営協議会運営計画 ②瀬谷支援学校ランドデザイン ③令和7年度学校評価報告書、 ④令和8年度学校評価報告書(目標設定) ⑤各部門・グループ取組の重点 ⑥令和8年度不祥事ゼロプログラム
議事録	<p>1 開会および校長挨拶 今年度4月に着任した。児童生徒334名でスタートし、1名転出があったので現在は333名の在籍者数となっている。県立特別支援学校の中でも大規模な学校となっている。給食を例にとると、児童生徒数の増加に伴い、今年度は検食の一食分以外、職員分を作ることが難しい状況にある。 今年度より、地域学校協働活動推進委員を1名配置することができた。今後も地域と共に学校づくりを進めていきたい。学校運営協議会委員の方々の理解と協力を得ながら取り組んでいきたい、との考えが示された。</p> <p>2 学校運営協議会委員紹介 事務局より横浜市立上瀬谷小学校校長・小林京子委員は都合により欠席との報告があった。各委員より自己紹介があり、元校長経験者から「自身が校長を務めたのは16年前だった。当時の仲間へ瀬谷に戻ってきている職員もいて心強い。」との話があった。その他の委員からは「今年度からの参加である」「こちらに参加して4年目になる」「地域学校協働活動推進委員も務める」といった内容の自己紹介があった。</p> <p>3 学校職員および事務局紹介 副校長、教頭、各学部長、分教室室長、各グループリーダーより、それぞれの所属や瀬谷での勤務年数等を交えながらの自己紹介が行われた。</p> <p>4 会長の選出 事務局より田村委員を会長として推薦する提案があり、委員の拍手により満場一致で承認された。田村会長より「大規模化の解決は中々難しい。一方で、県下で一番古い方の学校であることから、地域との係わりも長く、連携ができていところが強み。来年度は、近くで園芸博が開催されるのでどのような状況になっていくだろうかという懸念もある。学校運営協議会として、学校の教育活動に協力していきたい。」との挨拶があった。</p> <p>5 今年度の学校運営協議会について 事務局よりコミュニティ・スクール(学校運営協議会)制度の概要について説明があった。本校では「学校評価部会」「切れ目ない支援部会」の2部会を設置し、学校評価や就学前から卒業後までを見通した支援体制、地域・関係機関との連携について協議を行うことと、2部会それぞれの年間計画についての提示があった。 司会より、「説明の通りに進めてよろしいか」と確認があり、異議なく、提案の通りに進めることとなった。</p> <p>6 学校運営方針について 校長より、学校運営方針について次のような説明が行われた。 ■今年度は4年単位で策定される学校目標の3年目にあたる。 ■「子どもたちが行きたくなる学校」を作りたい。 ■大事にしたいこととして、ICTを活用した学び、個別教育計画に基づく教育活動の充実、いじめ等の未然防止、学校からの情報発信、地域との協働、等があげられた。</p> <p>7 学校教育目標について 各グループより、取組の重点目標についての説明があった。各学部、分教室からは学校目標と重点目標との関連、目標達成に向けた具体的な手立て等の説明があった。各校務分掌グループからは、校務支援システムや地域学校協働活動推進本部等に関する説明があった。</p> <p>8 不祥事防止プログラム 副校長より、令和8年度不祥事防止プログラムについて説明があった。今年度は、取組み課題ごとに担当部署を振り分け、それぞれが担当回で発表する形式を取るという話があった。</p> <p>9 協議 学校全体と各グループからの説明を受け、協議が行われた。 ■働き方改革が進められる中、民間や学校以外の現場ではどのような取組が行われているか、という質問に対し、「ICTの活用が進められている一方で、ICT機器の活用が苦手な職員もいるので、研修が必要」「3交代制の職場において、終わらない業務を次の勤務者に引き継ぐようしている」「横浜市では校務支援システムが大分動き始めている」といった応答がされた。 ■「育てたい子ども像」は誰にとっても理想像であるかということについて、共通理解をもって取り組むことが大事であるという意見があった。 ■他校の地域学校協働活動推進本部の見学に行ったところ、「教員の負担を減らそう」ということがキーワードの1つになっていた。小さなことからコツコツできそうなことを考えると、地域で担えそうなことがいくつか浮かんでくる、という話があり、「それは、ありがたい話である」というやり取りが行われた。 ■小学部の説明に対して、アセスメントで課題や得意なことを検証できるのはよいことであるが、アセスメントで見えるのはその子の一面であることを念頭に置き、得意なことを伸ばしていく意識が大事である、という意見があった。 ■中学部で「清掃活動にICTを活用する」という話があったが、どのように活用するのか、という質問を受け、「見通しが持てるような視覚支援に使用する等、清掃活動に楽しく取り組めるように手立てとして活用したい」という回答があった。 ■高等部(本校、分教室)について、1人1台端末の活用に関する話が話題になった。「将来のことを考えると、ICTを使うことと文字を書くことの両方が大事になってくると思われる」「企業に就労する上では、文字の読み書き、自力通勤、あいさつができることが必要である」という話があった。事務局からは、授業の中で文字を書いているという報告があった。</p>

■校務分掌グループの説明について、「校務支援システムは軌道に乗るまで大変そう」「会計処理の苦勞が伺える」「地域学校協働活動推進本部に期待したい」という言葉があった。

■地区センターで年間300回ほど実施しているイベントと学校が繋がって行けるとよいという意見があった。

■施設においても、社会に出るためのスキルを磨いていきたいという話があった。

■本日の会は情報量が多かったが、企業も特別支援学校のことをもっと知って、より連携を進めていきたいと思った、との感想があった。

#### 10 まとめ

校長より、「本日の会では「こんなことができそう」「こうして行かないといけない」ということが出された。今後とも、よろしく願いたい。」との発言があり、閉会となった。